

# おわりに

本書のまとめと今後の課題 -----	99
調査協力 -----	100



## シロチドリ（チドリ目チドリ科）

全長約 17 cm。留鳥として全国の海岸や干潟に生息するが、個体数は減少傾向にあるとされ、環境省第 4 次レッドリスト（2012）において絶滅危惧 II 類に新たに掲載された。比較的高いランクで新規掲載された理由として、近年の全国的な海浜の減少や、海浜のレジャー利用の増加による繁殖の失敗が挙げられている。成鳥、雛、卵とも、天敵から目立たないよう砂の色にカモフラージュしており、注意しなければ存在を見過ごしてしまう。



## おわりに

### 本書のまとめと今後の課題

本書は、主に河川管理者を対象に、鳥類の環境利用の視点からみた河川環境の整備・保全の考え方を提示することを目的に、鳥類現地調査の結果や既往文献等をもとに、いわゆる普通の鳥を含めた様々な鳥類にとっての生息場としての河川環境について解説を行った。

第1章では、本書の導入として、河川で鳥類に着目する意義について、世界的な視野から日本の河川が鳥類の生息場として重要な拠点となっていることを示した。また、護岸整備による水際環境の劣化等により減少傾向にある種が多い渉禽類を中心に全国的な出現動向を整理し、河川の健全な移行帯を維持・保全していくことや、河川外の水田、ため池等の湿地環境の整備・保全もあわせて進めていくことの必要性を示した。

本書の中心である第2章では、河川内における鳥類の環境利用とそれを踏まえて河川環境の整備・保全を行う際の配慮方法について、水域、砂礫地、草地、河畔林、干潟の5つの河川環境ごとに解説を行った。鳥類の出現有無と環境要因の関係の分析では、一部の鳥については統計上有意な関係が見出され、ある鳥が生息するにはどのような量・質の環境が必要となるか、ある程度定量的な結果が得られた。ただ、予測値のばらつきの幅が広いものも多く、今回の結果（数値）が絶対的なものと言うことはできない。また、鳥類の生息を左右する要因には地域差も考えられることから、今回示した結果はひとつの目安として捉え、予測値の適用にあたっては当該地域での既往知見等も参照し、学識者の助言を受けることが望ましい。

第3章では、第2章で整理した河川内における知見を補足する位置付けで、主要な鳥類の河川外における環境利用を解説し、それを踏まえた河川内外での取組上の配慮点を提示した。取り上げた鳥類は限定的だが、流域へと視野を広げ、河川外の生息場の管理に係る機関・団体等と連携するためのひとつの参考としていただきたい。

今後、今回対象としなかった河川の上流部や他地域においても知見が整理され、鳥類の環境利用を踏まえた河川環境の整備・保全の取組が全国に展開され、かつ、様々な取組のフォローアップを通じ、取組内容の一層の充実が図られていくことを期待したい。

## 調査協力

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

### 【多摩川】

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

河川環境課

調査課

田園調布出張所

多摩出張所

多摩川上流出張所

国土交通省 関東地方整備局 関東技術事務所 維持管理技術課

### 【矢作川】

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

調査課

岡崎出張所

安城出張所

### 【鈴鹿川、雲出川】

国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所

調査課

鈴鹿川出張所

雲出川出張所